

物流DXとは？物流業界が抱える課題と3つのDX導入事例を紹介！

「物流DXとは？」「物流DXを取り入れた事例はある？」などと気になっていませんか？

近年、日本企業全体においてDXを推進する動きが見られます。物流業界のDX化も進んできていますが、どのような取り組みをすればいいのかわからない人も多いかと思います。

物流業界は顧客ニーズの高まりやグローバル化によって、配送のスピードアップやコスト削減に向けた取り組みが必要です。DX化が進めば、配送サービスの質の向上や顧客満足度の向上が期待できます。

本記事では、製造業界が抱える課題やDX化が必要な背景に触れつつ、製造業DXの意味や取り入れるメリットを解説します。製造業DXの事例や活用できるサービスも紹介しているので、ぜひ参考にしてみてください。

物流DXとは

物流DXは、物流業界においてデジタルトランスフォーメーション(DX)を推進することを目的としたものです。DXはデジタル技術の導入によって、より効率的な物流サービスの提供や顧客サービスの向上などを実現することを意味します。

物流DXは、デジタル技術を活用した物流管理システムの構築や配送の自動化などの推進を通じ、物流業界を変革することを目指しています。顧客のニーズに合わせた配送サービスを提供できるようになるだけでなく、配送のスピード・正確性・安全性の向上にも寄与します。

物流業界の課題と物流DXが必要な背景

経済産業省は日本企業のDX推進に取り組んでいます。物流業界のDX化も進めていますが、いくつか課題点もあります。

物流業界の課題

物流業界は顧客ニーズの高まりやグローバル化などによって、複雑化する配送要件や運送環境の変化など、多くの課題に直面しています。主な課題点は以下の通りです。

- 配送のスピード・正確性・安全性の向上
- 配送の費用削減
- 配送管理の自動化とデジタル化
- 配送のグリーン化(環境対応)
- 配送業務の人材育成
- 配送サービスのグローバル展開

課題を解決するためには、物流業界は技術革新やデジタルトランスフォーメーションなどの推進が求められています。課題を乗り越えることで、より効率的な配送サービスの提供や顧客サービスの向上が目指せるでしょう。

物流DXが必要な背景

物流DXは顧客ニーズの向上やグローバル化、環境保全や技術の進歩などに対応するために必要とされています。スピード・正確性・安全性を求める需要が高まっている一方で、グローバル化に伴い配送範囲や配送要件が複雑化している状態です。

環境保全も重要な課題であり、デジタル技術の進歩に伴いより効率的な配送サービスを提供することもできるようになりました。物流DXによって、配送サービスの質の向上や顧客満足度の向上を目指せます。

物流DXを推進するメリット

物流DXを推進するメリットをまとめると、以下の通りです。

- 効率的な配送サービスの提供
- 顧客満足度の向上
- 環境保全

それぞれ詳しく解説します。

効率的な配送サービスの提供

物流DXはデジタル技術を活用して、配送経路や配送スケジュールなどをより効率的に管理できます。配送経路を最適化することで、配送時間の短縮や輸送費用の低減を図ることも可能です。

配送データをデジタルで管理することで、正確な配送ステータスの確認や配送トラブルのスムーズな対応ができます。

顧客満足度の向上

物流DXによって、配送データをデジタルで管理することで、配送ステータスをリアルタイムに顧客に通知できます。顧客は配送ステータスを確認できるため、配送のスムーズな進行状況を把握できるため、いつ物が届くかの把握もしやすくなるでしょう。

また、配送サービスの質の向上や配送のスピードアップによって、顧客満足度も向上します。

環境保全

物流DXはデジタル技術を活用して、より効率的な配送経路を設計できます。これにより、配送距離の短縮や不要な輸送を回避できるため、環境負荷の低減や環境保全に貢献することにもつながるでしょう。

また、デジタル技術を活用することで、資材管理や輸送計画などにより、環境に優しい配送サービスを提供できます。

物流DXの事例

物流事業をメインとする会社の中には、すでにDX化を進めているケースも多いです。DX化を進めている会社の一例をまとめると以下の通りです。

- Amazon
- DHL
- FedEx

それぞれ詳しく解説します。

Amazon

Amazonはデータ分析やAIなどを活用した物流DXを通じて、配送スピードや配送精度の向上に努めています。例えば、Amazonは配送中の物品のトラッキング情報をデジタル化することで、配送のスムーズさや精度の向上に成功しました。

また、配送ルート最適化や配送車両の最適利用を行うことで、配送コストの削減を可能としています。顧客とのコミュニケーションの自動化や配送スタッフのタスクの自動化など、物流業務におけるワークフローの最適化も特徴の1つです。

DHL

DHLは物流DXを通じて、よりスムーズで効率的な配送サービスの提供を目指しています。例えば、DHLは大量の配送データを分析することで、配送ルート最適化や配送タイミング最適化などを行っています。

配送中の物品の状況をリアルタイムでトラッキングすることで、配送状況を随時把握し、配送スピードや配送精度の向上を可能としました。配送作業の自動化や配送タスクの自動化、配送スタッフのタスク最適化なども推進しています。

これにより、配送サービスのスピード・精度・コスト効率の向上が期待できるでしょう。

FedEx

FedExは物流DXを活用することで、配送サービスを高速・高品質・低コストに改善することを目指しています。デジタル技術を活用して、配送作業の自動化や配送ルート最適化、リアルタイムトラッキングなどを実現しました。

これらのDX技術によって、配送状況のトラブル解消や、お客様へのタイムリーな配送サービスの提供が可能です。さらに、デジタル化による情報管理最適化やデータ分析による配送課題解決も目指しています。

物流DXに活用できるサービス

物流業のDX化を進める場合、以下のサービスが活用できます。

- オムニチャネル配送サービス
- 自動化された配送ルーティング

- 配送トラッキングサービス

それぞれ詳しく解説します。

オムニチャネル配送サービス

オムニチャネル配送サービスは、複数のセールスチャネルを統合して配送を行うサービスです。顧客がオンラインショップや現地の店舗などで購入した商品を、統一的な配送システムを通じて配送できます。

本サービスを活用することで、顧客は商品を簡単に受け取ることができ、企業は配送の作業時間とコストの削減が可能です。さらに、顧客とのエンゲージメントを向上させることもできます。

自動化された配送ルーティング

配送ルーティングサービスは、配送の配達経路を自動で決めてくれるサービスです。配送スケジュールや配送先、配送経路などを自動的に最適化し、配送の作業時間とコストを削減できます。

配送業者は配送作業のタスクを減らすことができ、顧客はスムーズに荷物を受け取ることが可能です。さらに、配送トラッキングシステムと統合することで、配送状況をリアルタイムで追跡できます。

配送トラッキングサービス

配送トラッキングサービスは、配送された商品や荷物の輸送状況をリアルタイムで追跡するサービスです。配送業者は配送トラッキングシステムを通じて、配送された商品の位置やステータスを確認できます。

また、顧客にも配送のステータスを確認することも可能です。本サービスを活用することで、配送業者は配送のスムーズな遂行を保証することができ、顧客は配送状況をリアルタイムで追跡できます。

まとめ

物流業界は顧客ニーズの高まりやグローバル化によって、配送のスピードアップやコスト削減に向けた取り組みが必要です。DX化が進めば、配送サービスの質の向上や顧客満足度の向上が期待できます。

ぜひ本記事の事例を参考にしながら、物流業のDX化を進めてみてください。